

10 報告会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2014 in Ensyu

報告会では、各分科会のコーディネーターがそれぞれ議論された内容を報告し、浜松市長がサミット宣言を行った。また、豊橋市長が次回開催地域を代表してあいさつをした。

■「道」分科会

コーディネーター／浜松市長 鈴木康友



今回の「道」分科会は、三遠南信自動車道等が部分的にしても供用が開始をされて、それぞれの地域で予想以上にいろいろな整備効果があらわれているということで、今回は各地域で、「こんないい効果が出ている」だとか、「こんないい影響があった」という、具体的な報告をいただくとともに、逆に、そこから見えてきた課題、あるいは、「こうすればもっともっと整備効果が上がるのではないか」、そんな二つのポイントでご意見をいただきました。

分科会における主な議論としては、三遠南信自動車道の供用開始により、救急医療体制の拡充や産業・観光等の活性化のほか、町の知名度アップ等につながるなどさまざまな効果があらわれている。いろいろ具体的な事例も交えてご報告をいただきました。

また、人口減少時代にあって、近隣の自治体の連携を深めるためにも、三遠南信自動車道のように、本当に必要な道路こそしっかり整備を進めるべきであると。あれもこれもというよりも、こうした整備効果の上がる必要

な道路はもっとどんどん整備してくれと、こういうご意見でございます。

あるいは、三遠南信自動車道など基幹道路の整備とあわせて、生活道路やバス路線など整備効果を一層高めるための地域交通体系のあり方についても、今後、研究していく必要があるといったご意見がございました。

こうしたことを受けまして、本日の「道」分科会の結論ですが、1といたしまして、三遠南信自動車道の整備が進み、救急体制の拡充や生活圏の拡大、観光・産業の活性化など本地域の活性化が徐々に図られつつある。2、一方で今なお整備が途上であったり一部遅延するものがあったり、交通基盤の整備における課題は依然として存在する。3、人口減少時代における三遠南信地域のさらなる活性化の基盤づくりとして、三遠南信自動車道を初めとした基幹道路の早期整備を目指し、地域全体が一丸となって国及び県に強く要望する必要があるとの3点でまとめさせていただきました。

基本的な方向性というのは、これまでもろもろ踏襲をしておりましたが、一部供用開始が行われまして、予想以上の効果を実感しているということを踏まえて、なお一層具体的な整備推進に向けた取り組みをしていこうと、まとめさせていただきました。以上、「道」分科会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■「技」分科会

コーディネーター／光産業創成大学院大学
江田英雄リエゾンセンター長



「技」分科会の報告をいたします。「技」分科会といたしましては、全体の議論の流れとしては、新事業をどうやって創出しようかという話、あとは既存事業をどうやって大きくしていこうかという話、それに加えて、どういふ人財を育てていくのかというような、主にそういう点に関して議論をいただきました。

出た意見といたしましては、やはり人財育成では地域に役立つ、地域に根ざした形の人財育成が必要であろうかという点が出てきました。

それから、各地域の得意分野として、SENAとして得意分野同士で連携していくという、そういう連携が今後必要ではないかと。有機的に連携していこうというような意見が出ました。

それから、大学が人財育成の場として想定されるケースがあるのですけれども、どうも相談しにくいと。大学が何をしているかわからないという意見が出ました。SENAで大学への相談窓口のようなものをつくってもいいのではないかというようなおもしろい意見も出てきました。

以上の意見を踏まえまして、「技」分科会といたしましては、以下の3点の意見をとりまとめさせていただきます。

各構成の取り組みとして、国内外から人・もの・金が集まるような魅力ある新産業及び

環境の創出・集積を図る。以上が1点目です。

2点目は、これをさらに発展・拡大させるために必要な人財をどうやって育成するか。県境連携、あるいは大学、行政、企業、市民団体の連携という点から仕組みづくりを検討する。以上が2点目です。

3点目として、環境を創出する取り組みの一環として、SENAの事業というのをどんどん実施していく。

以上の3点をまとめとして報告させていただきます。

■「風土」分科会

コーディネーター／特定非営利活動法人
三遠南信アミ 黍嶋久好理事長



それでは「風土」分科会のご報告をさせていただきます。分科会には市町村長7名、商工会会長1名、住民団体から2名、の10名で議論が交わされました。分科会のスタートは、三遠南信住民ネットワーク協議会の田中代表世話人より「祭り街道を活かす活動について取り組み」の報告をしていただきました。この中で三遠南信住民ネットワーク協議会が取り組んでいる活動について報告をしていただきました。「人」、「もの」、「情報」の三つのキーワードを使って三つの取り組みについて説明をいただきました。

1つ目の「地縁店」は、東三河、遠州、南信州の3地域のアンテナショップとして「地産地消」を超えた「互産互消」として3地域

の特産品をお互いに紹介・販売をしようとするものです。新城市の「もっくる新城」は、新東名高速道路の新城インターチェンジと一般国道151号新城バイパスとの結節点にできる予定で、現在要望中とのことですが、ぜひ3つの拠点において情報発信や人の交流が生まれることを期待したいと思います。

2つ目は「祭り街道」として、伝統芸能の宝庫である三遠南信地域の至るところで開催されるお祭りを、圏域内にある「道の駅」等で情報発信をしていこうというものです。道の駅は、旅の方が訪れる情報スポットです。こういった場所を活用して、お祭りを求めてまた来てもらうというものです。

3つ目は「芸術」「スポーツ」街道ということで、各地で行われている「芸術」「スポーツ」等の催しを相互に応援し合い、地域交流を行おうというものです。平成24年に設立された三遠南信住民ネットワーク協議会ですが、このように具体的な取り組みがなされています。「人」だけではなく、「情報」や「もの」の交流が進んでおり、今後の取り組みがますます発展されることを期待します。

分科会のテーマは、「塩の道エコミュージアムの形成」とし、それぞれの地域資源を活用した事例紹介、ファン獲得の工夫、連携・ネットワーク化についての課題について、意見交換をしました。

事例の紹介でございます。飯田市と浜松市との「峠の国盗り綱引き合戦」という取り組みがありますが、昨日その戦いが行われたところです。今年は、浜松市が勝利し、1メートル境界が変わりました。この取り組みは今年、サントリー文化財団が主催するサントリー地域文化賞に見事選ばれました。古くは人と物の交流が盛んに行われていましたが、かつての交流を復活させる取り組みとして評価されました。昭和62年から続いている交流イベントです。

磐田市からは、農林水産物を使ったスイー

ツをとという例のない取り組みをご報告いただきました。農林水産物を素材としたスイーツを発掘し、農林水産物の販路拡大及びブランド化に繋げていこうとするものです。将来的には、磐田市の名物となるようなスイーツの創出を目指しており、行政、JA、商工会議所、金融機関が連携した取り組みとしてご紹介いただきました。他にも地域資源を活用した取り組みをご報告いただきました。

更なる連携に向けての意見が出されました。事例に出てきた取り組みを地域資源の情報を体系化し、共有していくことで新たな連携につながるのではないかと。その一例として田原市と飯田市の連携で生まれた焼酎「亀若」はそれぞれの得意な分野で連携した成功事例があります。課題解決によりもっと新しい連携が生まれる可能性が高まるものと思われれます。民間団体との連携によって生まれており、連携の強化がのぞまれます。

広域観光を推進するためには、三遠南信地域の歴史や風土との関わりを共有する必要があると、それらに物語性を付加させて、連携に繋げたらどうかという素晴らしいアイデアもいただきました。

これらの意見を踏まえまして「風土」分科会において3つのポイントでまとめ、ご報告いたしました。

1. 今回の意見交換で出されたアイデアやそれぞれが持つ地域資源を認識し合い、それを体系化し、持続的な観光客誘致に結び付けられるよう情報発信力を高める。
2. 地域資源の活用に取り組む民間団体との連携を強化する。
3. 三遠南信地域の歴史や風土を整備し、それに結びつけたストーリーを持った広域観光の推進による交流人口を増やす。

これらを確認しました。以上をもちまして「風土」分科会の報告とさせていただきます。

■「山・住」合同分科会

コーディネーター／豊橋技術科学大学

大貝 彰副学長



「山・住」分科会の報告をさせていただきます。私、この報告会の壇上に4年か5年、続けて上がっておりますけれども、また改めて、今日の分科会の報告をさせていただきたいと思えます。

初めに、浜松市の市民部長の岩井様から、「浜松市の中山間地域振興」について、ご報告いただきました。御存じのように、浜松市は1,500平方キロメートルという、中山間地域と都市部とを含めた形の非常に広域の自治体であります。そうした中で、都市部と中山間地の交流について、その交流を促進し続けることで持続的な連携を確立して、協働による地域の自立につなげていくということの必要性ということについて提言をいただきました。

引き続き意見交換に入りまして、最初に、各自治体あるいは経済界から、定住促進あるいは地域活力の維持のための取り組みの具体的な事例についてご紹介をいただきました。

それに続いて、中山間地域の活性化に結びつけるため、改めて、またこの場で、この三遠南信地域の中山間地域にはどういった魅力あるいは資源があるのかといったことの確認をさせていただきました。

そこでは、中山間地域をその中から見る視点、一方で、外から、つまり都市部から、あ

るいは東京とか都市圏から見る視点という、そういう立場でご意見をいただきました。

最後に、こういった地域資源を活用しながら、これからの上下流連携を、あるいは交流を促進していくためにはどうすればいいのかといったこと、あるいはこの三遠南信のSENAの構成員、関連する組織が連携して取り組むべき課題は何であるかといったことについてご意見をいただきました。

非常にさまざまな意見が出ましたので個別の事例については差し控えますが、今回、私が特に感じたのは、それぞれの団体の取り組みが、これまでになく非常に活性化しているなということを実感いたしました。新しい就業者が増えたとか、定住が具体的に何人、どここの町で進んだ、起こったということですね。あるいは交流人口が圧倒的に増えたんだという報告がございました。そういう意味では、非常に具体的な成果が上がっているのだろうなということが実感できたということです。

これは、当然ながら新東名あるいは三遠南信自動車道の一部供用開始ということによって、この中山間地域へのアクセスが非常に高まってきているということの裏づけかなと思います。もう一方で、最近の若者の価値観が多様化して、いわゆる自然回帰といえますか、自然志向する若者が増えてきているのではないかなと、そういったことも背景の一つあるのかなと思いました。

それから、もう一つ、これは感想になりますが、今回の分科会に参加いただいた皆様の発言が、従来から少し視点に変化してきているというのを私自身感じています。それは何かと申しますと、これまでは、どちらかというとそれぞれ自治体の代表であるとか、経済界の代表の方ですので、それぞれ自分のところでどういう取り組みをしている、どういう成果があったということがほとんどの発言だったのですけれども、今回は、特に東三河、東

三河はこれから広域連合を立ち上げるということもありますけれども、自分の自治体の話ではなく、自分の自治体と周りの自治体がいかに連携して、この地域を活性化させていくか、そういう視点からの発言があったということで、そういったことがこの地域の共通の認識になりつつある、広域連携ということが共通の認識になりつつあるということを非常に感じました。これも恐らく、このサミットを重ね、こういった議論を積み重ねてきた成果かなと感じております。

ということで、最後に、まとめとして三つほど挙げさせていただきました。

一つが、三遠南信自動車道あるいは新東名等の広域の道路基盤整備の効果を活かしながら、雇用創出、そして、定住促進を目的とした産業分野あるいは観光分野の政策をこれからもより一層連携しながら推進していくこと。これが1点であります。

2点目としましては、この中山間地域の持つ魅力、それは自然景観であったり、森林資源であったり、先ほどから出ています祭り街

道等の伝統芸能だと思います。こういった資源を地域内外に発信しながら、この域外からの交流人口を増やしていく。そのための施策を検討するということだと思います。これが2点目です。最後に、3点目としては、こういった施策を推進していくために、この圏域内の行政あるいは経済界など、さまざまな分野で市町村の枠を超えて、広域連携の強化をより一層推進していくということが求められるのだろうということで3点、まとめさせていただきました。

最後、余談ですが、広域連携を強化・推進するため、こういったサミットにおける分科会を年2年ほど開いていただけると、より議論が深まっていくかなと思っているところです。最後は余談です。どうもありがとうございました。



■サミット宣言 浜松市長 鈴木康友

第 22 回三遠南信サミット in 遠州では、「～変わりゆく社会環境のなかで～三遠南信の特色を活かした地域発展を目指して～三遠南信地域連携ビジョンの実現のために～」をテーマとし、各分科会において、現在の状況確認の上、今後の課題解決のための取り組みについて議論をしました。

私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、今年度、連携体制・事業推進体制の強化を図ったところですが、本日のサミットでの議論を踏まえ、次の事項に重点を置き、県境広域連携の一層の発展を目指して、更なる事業の推進に取り組みます。

- 1 三遠南信自動車道は、地域連携の基軸であり、地域間交流の形成に重要な役割を果たす不可欠なものです。また、大規模災害時には、救援活動、物資の輸送だけでなく、避難路として利用されるなど「命をつなぐ道」として重要な社会基盤であることが確認されています。

今後においても更なる圏域の一体的な振興・発展のため、三遠南信自動車道の早期全線開通を始め、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現、リニア中央新幹線の着実な整備推進を目指し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議を中心とし、地域一丸となった提言活動を進めます。

- 2 本地域の強みである自動車産業など多様なものづくり産業の集積を維持・強化するとともに、成長が見込まれる航空宇宙産業や健康医療産業など将来を担う新たな産業を、三遠南信地域の産学官金の機関が共創により戦略的に育ててまいります。

また、三遠南信地域内の大学と産官との連携による人財育成については、産学官人財育成円卓会議において確認されたアクションプランを実施してまいります。

- 3 「塩の道エコミュージアム」の形成に向け、自然、歴史、文化、産物など地域資源を活かす事業に取り組む民間団体との連携を強めるとともに、三遠南信の魅力の情報発信力を高め、三遠南信地域における持続的な観光客誘致を進め、また、観光資源や伝統工芸品などの特色ある地域資源を活用し、地域経済の活性化に繋げてまいります。

- 4 中山間地域を活かす流域モデルの形成に向け、都市部と中山間地域間での人・ものの参加・交流・連携事業の推進を図るとともに、情報発信体制の整備・強化を進めます。

また、地震や台風などによる、広域的または局地的な災害に対応するため、県境を越える防災の連携体制の強化に取り組み、安全・安心な地域の形成を推進します。

- 5 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、本年度の事業部会の設置により、構成員が一丸となり、事業の一層の進捗を図ってまいります。さらに、三遠南信地域の広域観光振興、産業振興、防災、環境保全などについて、平成 28 年度を目途とした広域連合などによる連携体制の整備を目指し、引き続き各自治体間での協議を促進します。

これらの取り組みをここに集うすべての主体が確認し、第 22 回三遠南信サミット 2014in 遠州のサミット宣言といたします。

平成 26 年 10 月 27 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
三遠南信サミット 2014in 遠州

○次回開催地域挨拶

豊橋市長 佐原光一



皆さん、大変お疲れさまでございました。

新 SENA に移行しての初のサミットでございます。たくさんの方たちに注目される地域の県境を越えた連携、そして、それを推進する SENA という母体のあり方、応援していただいておりますたくさんの方たちの、その思いがこもった、素晴らしいサミットだったなと思っております。私もこうやって最後の最後までたくさんの方たちにお残りいただいて、とてもうれしく思っております。

さて、この素晴らしい浜松でのサミットを受けまして、来年、東三河ということで、私たちの地域が担当させていただくことになります。私たちの地域、ご案内のとおり、12月の市議会の提出を目指して、広域連合の取り組みを着々と進めさせていただいているところでございます。いろいろな方面から注目を浴びながら、また、総務省においても広域連携の取り組みがターゲットとなっている中で、いろいろな面で調整し、準備しているところでございます。来年は、私たちの広域連合が発足して初めという言い方になるかと思いますが、そうした年にサミットを担わせていただくことになりました。本当にありがとうございます。

今、日本は少子化の急速な進展、そして、それに伴って人口減少という非常にダイナミックな社会構造の変化の中におります。そんな中で注目を浴びているのは、やはり地方の

力をどうやって強くするか。出生率 1.1 の東京に任せてはおけないという強い思いを持って、私たちはこの地域、特に県境を越えても頑張っていこうということで取り組ませていただいております。その強い思いを存分に発揮できるようにしていかなければいけないと思います。

そんな中で、今年は南信地域、そして、遠州地域の新たな参加団体、8市町村、3商工会という仲間が加わりました。東三河は一個も入っていないじゃないかと言われますが、東三河はもう入る余地はございません。全員参加でございます。しからば、西三河に東三河の勢力を広げていかなければいけないのかと思っているところでありますが、とにかく、みんなの力が一つにまとまることのすばらしさを感じていただける方たちがこんなに増えてきているのだ、そして、その力を私たちは何ともしっかりと実現につなげていかなければいけない、こう強く思っております。

来年のサミットにおきましては、また一歩進展を見ることが出来る素晴らしいサミットにしていくために、精いっぱい準備をして頑張っていきたいと思っております。

来年度のサミットは、みんなの声が大きく届く、そんなサミットにしていきたいと心から願っており、その準備を進めてまいりたいと思っております。

終わりに当たりまして、きょうのこの素晴らしい会をご準備いただきました事務局の皆さん、そして、ご参加いただきました経済界、行政、大学、議会、何よりも住民の皆様、全ての皆様に心から感謝申し上げます、来年もぜひお集まりいただきますように、心からお願い申し上げます、次回開催地を代表してのあいさつとさせていただきます。

来年も皆さんも、一緒に集まりましょう。よろしくお願いたします。